



北海道後志 尻別岳(1107.4m) (ハイキング / 積丹・ニセコ・羊蹄山)

by
gekiyabu 

日程 :

2012年06月23日(日帰り)

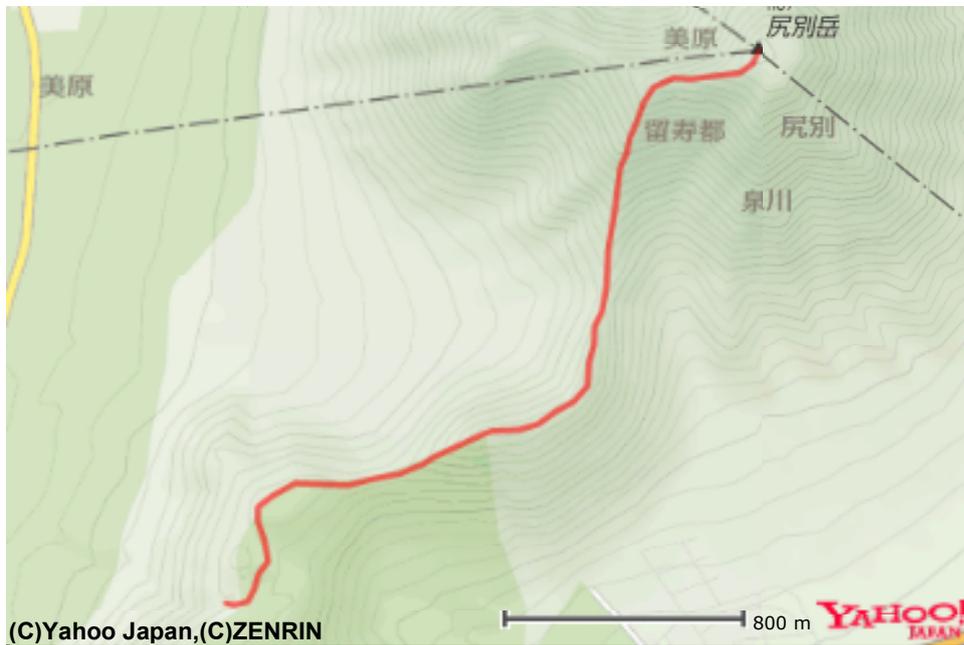
メンバー :

gekiyabu

天候 :

曇り

地図 :



WEB SERVICES BY 

標高グラフ :

コースタイム :

9:30 登山口 -- 10:50 尻別岳 11:01 -- 12:01 登山口

コース状況 / その他周辺情報 :

- ・登山道はよく整備されているが、体に触れる藪が皆無と言うわけではないのでロングスパッツがあると便利
- ・尾根上は東に開けた場所があり、スルツを眼下に見下ろしながら歩く
- ・山頂は背の高さほどの笹に周囲を囲まれていて、遠くの山は見えるが近くの風景は見えない。今回はガスって何も見えなかった



写真 :



林道入口。案内標識なし



林道はダートだが普通車でも走行可能。でも雨の時は泥濘で車が盛大に汚れる



尻別岳登山口



登山道



ルスツスキー場のリフト



稜線東側は木が無く展望がいい



楯負山



ルスツリゾートと貫気別山



773m峰



急な尾根を登る



もうすぐ山頂



尻別岳山頂



登山口に戻る

感想／記録 : (by gekiyabu)

尻別岳は羊蹄山の南東側にあり、麓にはルスツリゾートがある。南西側のピークである橇負山まで林道が伸びていて、その途中に登山口がある。林道は西側の美原集落付近からと東側のルスツリゾートからの両方向があるが、地形図を見るとルスツリゾート側は施設敷地内を通過するようになっており一般車が通行可能なの不明なため、西側からアプローチすることにする。

軍人山から下り、道道257号線に戻って僅かに北上すると右に入る分岐が登場する。入口にはジャガイモ畑は立入禁止の看板が出ているだけで尻別岳の案内は無い。車止めも無いので目的的林道と思われとりあえず進入。最初にジャガイモ畑への病気持ち込み防止のためか、人工の水溜りをバシャバシャと突っ切り車のタイヤの清掃だ。その後はダート道が続く。轍の様子から多数の車が通過していることが分かるが、数箇所酷い泥濘がありタイヤ周りはたちまち泥だらけ。まだ走行距離が約5000kmの新車レンタカーもたちまち泥だらけ。ごめんなさい。傾斜が緩いからまだいいが、もっと傾斜があったら2WD車では泥濘地帯は登れないかもしれない。それともこのレンタカーは4WDか？

進路が南に変わって緩やかに高度を上げていくと登山口登場。しっかりと標識があって駐車スペースもある。まだ雨が降っているせいだろう、車は皆無。天気は回復傾向のはずなので少し待ってから出発することにして車内で昼寝。外が賑やかになったので体を起こすと車が5,6台追加、出発準備中のパーティーもいた。雨は止んでおりこちらも急いで出発準備。念のためゴアと傘を持ち、最初からロングスパッツ装着。先客がいそうなので体に触れる藪があっても「露払い」されているだろうから、たぶん酷く濡れることはないだろう。気温は本州よりずっと低いので最初は長袖を着込む。熊避けの鈴は2つぶら下げる。昨日購入した虫除けも準備。

登山口の入山届けノートに書き込んで出発。登山道は完璧な刈り払いとはいかないが、それなりに整備されている。周囲は深い笹藪なので登山道が無ければ雪のある時期しか登れないだろう。最初の680m峰は東を巻き、696m峰付近で藪の中に立ったリフト終点脇を通過。冬ならここがスキー場上端なのだろう。今回は地形図を忘れてきてしまっているため山頂までの地形が分からず、天気が悪くて標高が高いところは雲の中で目視でも地形が見えないので、これから一本調子で登っていくのかもアップダウンが繰返されるのかも分からない。ちゃんとした登山道があるので地図が無くても山頂まで到達できるのは間違いないだろうけど。

単純な尾根の登りの期待を裏切り、660m鞍部へと下り773m峰へと登り返す。この尾根は概ね西側斜面は背の高い樹林が茂り、東側斜面は立ち木が無く展望が開けている。眼下にはルスツリゾートが広がり、その奥にはガスが掛かった貫気別山。ここは登山道はあるのだろうか。773mピークへの登りで3人パーティー、次に5,6人のパーティーを追い越す。この頃には体が充分温まってTシャツ姿に変身し、皮膚が露出した部分

には虫除けをスプレー。本州よりは虫の数は少ないが全くいないわけではない。

もう下りはないだろうと思ったら723m鞍部への下りが登場。そこからが本格的な登りだった。右手下の谷には僅かに白いものが残っており、雪崩のデブリに土がかかって断熱材代わりとなってまだ雪が残っているようだ。

ガスの層に入り周囲が見えない中を黙々と登る。気温は10℃程度と涼しいが、この傾斜だと体の発熱が大きく無風では暑ささえ感じるため、北海道でまさかの扇子登場。この気温では効果覷面で涼しさアップ。自然の風があれば気持ちいいんだけどなあ。傾斜が急なので滑りやすい箇所もあり、下りはストックがあった方がいいかもしれない。

傾斜が緩むと1040m肩。地図があれば山頂が近いことが分かるが、地図を持たずにガスの中を歩いているので山頂まであとどれくらいか皆目見当が付かない。山頂の標高も知らないの高度計から推測することもできない。今回はしくじったかな。でも植生は灌木交じりからほぼ笹のみに変わり、何となく山頂間近の雰囲気を感じられる。

傾斜がさらに緩んで笹の刈り払いの道を進むと突然広場が登場、真ん中に三角点と山頂標識が立つ尻別岳山頂だった。先客は単独男性が1名。出発準備をしているところでちょうど入れ違いだ。周囲は背丈より低い笹原なので晴れていれば展望が楽しめそうだが、今は一面のガスで展望皆無。本来ならば目の前には羊蹄山がどーんと聳えているはずなのだが・・・まあ、雨が降っていないだけマシか。

大して疲れなかったし、展望が無い山頂で休憩してもしょうがないので休憩は短時間で切り上げて下山開始。15分くらいで登りで追い越したパーティーとすれ違い、その後、先に下った単独男性を追い越した。登山口に到着直前、大降りではないが雨が降り始めた。ちょうどいいタイミングだったようだ。

Copyright(c) Yamareco. All Rights Reserved.
<http://www.yamareco.com/>